
おばさん規格

三代渡吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おばさん規格

【Nコード】

N9354E

【作者名】

三代渡吉

【あらすじ】

今、世の中で一番強くて頼りになるのはおばさんだ。だからおばさんのために規格を合わせようという試みが始まった。

最近、いろんなスーパーに、おばさんパーマのマークシールが貼られるようになった。

これはおばさん規格加盟店のシール。

すなわち、店がおばさんの規格に合わせているという証なのだ。

例えばここ、おばさんの御喋りゾーン。

おばさん達といえ、やっぱり長話。むしろ長話だけが唯一の生き甲斐って人だっているかもしれない。

それなのに、他の客はお構いなしにウロウロしている。まったくもって、邪魔で仕方ない。

そんなおばさん達のために作ったのが、この御喋りゾーンだ。

広々とテープで区切ったゾーンでは、どれだけ大きな声で話しても大丈夫。誰も文句が言えないようになっていた。

もし、文句を言う人がいても大丈夫。即退店して影響的に店に立ち入り禁止とされている。

おばさん規格のシールが貼ってあるところでは、おじさんは残念ながらあまり良い扱いをされることはない。でも、そこは我慢しなくてはならないだろう。

おじさんはいつも口が臭かったり、家では平気で屁をこいたり、酒飲んで大暴れしたりしてるのがほとんどだ。

スーパーでくらい、おばさんの天下にしようじゃないか。

というのが、このシールで決まった精神である。

そして、この規格シールを貼ってある店で一番特徴的なのはこれ。おばさんは、この店の中だけでは銃刀法違反にならない。

これは何故かというと、最近では若者が事件を起こすことが多いからだ。

スーパーでも度々強盗殺人事件が発生している。その時、護身用

の武器がなかったら、もう大変だという話ではなくなるではないか。でも、悲しいかな、法律はそれを許してくれない。

しかし、このシールを貼ってる店では、特別にそれが許されることになった。これも日本おばさんパーマ連合協会のおかげだ。

おばさん達が若者に刺し殺されるなんて、あつてはいけない事件なのである。

そんなことをする者達は、おばさんに殺されたり撃たれたりして、当然ではないか。

わざわざ書かなくても良かったかもしれない。

この銃刀法違反免除は、とても店側としても嬉しい話だっ。

何故なら、お客が店に入ってきたうるさい蠅や蛾などを撃ち殺してくれるのである。

バイトは店員がそれに気づかずとも、お客が全部やってくれるのだから、仕事もそれはもうはかどる。

ゴミブリがたとえ出てきたとしても、自分で殺せるのだし、文句を言われることは格段と少なくなるはずだ。

でも、やっぱり困るのは、突然店の商品を機関銃で打ち壊し始めたり、夫婦喧嘩の末に妻が夫を殺してしまうこと。

流石にこの規格のシールでは、強盗犯をぶっ殺すのはもう万々歳であっても、器物破損や夫殺害は流石に免除されない。

そんなことまで認めたら、近所の不倫モノ達がやってきて、スーパーで殺し合いを始めてしまうからだ。

流石に政府もそこまでバカじゃなかったのだ。

というわけで、このおばさん規格のシールは、今でも全国拡大中だ。

その個人経営のスーパーさんも、一ついかがであろうか？

「ちよっと、アンタ邪魔」

バッキューン。

あ………れ？

(後書き)

お客様は神様です。おばさまも神様です。おじさまも神様です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9354e/>

おばさん規格

2011年1月11日03時32分発行